

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時限1	時限2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
科学哲学科学史	8231001	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	月	2		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学1	
科学哲学科学史	8231002	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	月	2		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学2	
科学哲学科学史	8231003	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	金	2		伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学3	
科学哲学科学史	8231004	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	金	2		伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学4	
科学哲学科学史	8231007	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他		平岡 隆二	日本語	○	現代文化学5	
科学哲学科学史	8231011	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	水	3		藤原 辰史	日本語	○	現代文化学6	
科学哲学科学史	8231012	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	水	3		藤原 辰史	日本語	○	現代文化学7	
科学哲学科学史	8241001	科学哲学科学史(演習)	2	前期	火	3		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学8	
科学哲学科学史	8241002	科学哲学科学史(演習)	2	後期	火	3		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学9	
科学哲学科学史	8241003	科学哲学科学史(演習)	2	前期	金	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学10	
科学哲学科学史	8241004	科学哲学科学史(演習)	2	後期	金	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学11	
メディア文化学	8931001	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	水	1		河崎 吉紀	日本語	○	現代文化学12	
メディア文化学	8931004	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	3		松田 利彦	日本語	○	現代文化学13	
メディア文化学	8931006	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	火	2		山本 昭宏	日本語	○	現代文化学14	
メディア文化学	8931009	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	月	4		松永 伸司	日本語	○	現代文化学15	
メディア文化学	8931020	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	4		西山 伸	日本語	○	現代文化学16	
メディア文化学	8931023	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	金	4		蘆田 裕史	日本語	○	現代文化学17	
メディア文化学	8931026	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	2		小野沢 耕平	日本語	○	現代文化学18	
メディア文化学	8931029	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	金	3		谷口 文和	日本語	○	現代文化学19	
メディア文化学	8941001	メディア文化学(演習IA)	2	前期	金	2		喜多 千草	日本語	○	現代文化学20	
メディア文化学	8941002	メディア文化学(演習IB)	2	後期	水	5		松永 伸司	日本語	○	現代文化学21	
メディア文化学	8944007	メディア文化学(演習II)	2	前期	火	3		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学22	
メディア文化学	8944008	メディア文化学(演習II)	2	後期	火	3		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学23	
メディア文化学	8944009	メディア文化学(演習II)	2	前期	金	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学24	
メディア文化学	8944010	メディア文化学(演習II)	2	後期	金	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学25	
メディア文化学	M432001	メディア文化学(演習)	4	通年	水	4		喜多 千草・松永 伸司	日本語	○	現代文化学26	
現代史学	8433001	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	3		小野沢 透	日本語	○	現代文化学27	
現代史学	8433002	現代史学(特殊講義)	2	前期	火	4		林田 敏子	日本語	○	現代文化学28	
現代史学	8433003	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	1		河崎 吉紀	日本語	○	現代文化学29	
現代史学	8433004	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	3		藤原 辰史	日本語	○	現代文化学30	
現代史学	8433005	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	3		藤原 辰史	日本語	○	現代文化学31	
現代史学	8433006	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	2		高木 博志	日本語	○	現代文化学32	
現代史学	8433007	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	2		高木 博志	日本語	○	現代文化学33	
現代史学	8433008	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	2		石川 祐浩	日本語	○	現代文化学34	
現代史学	8433009	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	2		石川 祐浩	日本語	○	現代文化学35	
現代史学	8433010	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	3		西山 伸	日本語	○	現代文化学36	
現代史学	8433011	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	3		松田 利彦	日本語	○	現代文化学37	
現代史学	8433018	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	4		衣笠 太郎	日本語	○	現代文化学38	
現代史学	8433020	現代史学(特殊講義)	2	前期	金	2		小堀 聡	日本語	○	現代文化学39	
現代史学	8433021	現代史学(特殊講義)	2	後期	金	2		小堀 聡	日本語	○	現代文化学40	
現代史学	8433023	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	4		西山 伸	日本語	○	現代文化学41	
現代史学	8433024	現代史学(特殊講義)	2	後期	木	3		田崎 直美	日本語	○	現代文化学42	
現代史学	8433025	現代史学(特殊講義)	2	前期	木	2		KNAUDT, Till	日本語	○	現代文化学43	
現代史学	8433026	現代史学(特殊講義)	2	後期	木	2		KNAUDT, Till	日本語	○	現代文化学44	
科学哲学科学史	8202001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	前期	水	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学45	学部科目
科学哲学科学史	8204001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	後期	水	3		伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学46	学部科目
科学哲学科学史	8206001	系共通科目(科学史I)(講義)	2	前期	水	2		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学47	学部科目
科学哲学科学史	8208001	系共通科目(科学史II)(講義)	2	後期	水	2		伊藤 憲二	日本語	○	現代文化学48	学部科目
メディア文化学	8902001	系共通科目(メディア文化学)(講義A)	2	前期	月	4		松永 伸司	日本語	○	現代文化学49	学部科目
メディア文化学	8904001	系共通科目(メディア文化学)(講義B)	2	後期	金	2		喜多 千草	日本語	○	現代文化学50	学部科目
現代史学	8407001	系共通科目(現代史学)(講義I)	2	前期	水	3		小野沢 透	日本語	○	現代文化学51	学部科目
現代史学	8408001	系共通科目(現代史学)(講義II)	2	後期	水	3		塩出 浩之	日本語	○	現代文化学52	学部科目
現代史学	8433027	系共通科目(特殊講義)	2	前期	火	5		坂口 正彦	日本語	○	現代文化学53	学部科目
基礎現代文化学系	0062001	基礎現代文化学系(ゼミナールI)	2	前期	木	5		伊藤 憲二・白木 正俊・鈴木 真奈・TATAROZUK Marcin Adam・平岡 久代・福田 耕佑	日本語	○	現代文化学54	学部科目

現代文化学1

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	軍事研究の科学技術史(1): マイクロ波研究開発を中心として				
[授業の概要・目的]					
この授業では軍事研究をめぐるさまざまな考えを整理しながら、主に20世紀の具体的な事例を通して軍事研究と科学技術史とのかかわり、とくに軍事研究によって科学技術がどう変わるのか、何を 得て、何を失うのかを検討するものである。事例を通して戦争と軍事技術の内容にも立ち入ること を目指す。前期の授業では科学技術と戦争および戦略思想との関係を概観したのち、レーダーなど と深いかわりのあるマイクロ波の研究と開発を中心とした事例を扱う。受講者の関心などによっ て講義内容を変更することがある。					
[到達目標]					
軍事技術と科学史とのかかわりを通して、科学が社会とどのように相互作用して発展し、性格を変 えていくのかについての理解を深める。					
[授業計画と内容]					
1. オリエンテーション： 軍事研究とはなにか 2. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(1) 古代・中世 3. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(2) 近世 4. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(3) 18世紀から19世紀 5. 20世紀初頭までの科学技術と戦争・戦略思想(4) 20世紀初頭 6. 索敵と科学技術：光学、音響、電波 7. 通信技術と軍事 8. 真空管の発明とマグネトロン 9. 英国におけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 10. アメリカにおけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 11. 日本におけるマイクロ波研究とマグネトロン開発 12. マイクロ波研究と基礎物理学 13. 戦後の電子工学と軍事研究 14. まとめ：軍事研究には良いこともあるのか？ 15. フィードバック (履修者の関心などにより内容を変更することがある)					
[履修要件]					
特になし					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

レポート1回(100%)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

M スーザン リンディ 『軍事の科学』(ニュートンプレス, 2022) ISBN:978-4315526011

小野寺 拓也, 田野 大輔 『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』(岩波書店, 2023) ISBN:978-4002710808

古川安 『科学の社会史 ルネサンスから20世紀まで』(筑摩書房, 2018) ISBN:978-4480098832

コリン・S・グレイ 『現代の戦略』(中央公論新社, 2015) ISBN:978-4120048074

**[授業外学修(予習・復習)等]**

上記の参考書のほか、適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

軍事研究の科学技術史(1)と軍事研究の科学技術史(2)はそれぞれ単独で履修して構わない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学2

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	軍事研究の科学史(2):核兵器を中心として				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では軍事研究をめぐるさまざまな考えを整理しながら、主に20世紀の具体的な事例を通して軍事研究と科学技術史とのかかわり、とくに軍事研究によって科学技術がどう変わるのか、何を 得て、何を失うのかを検討するものである。事例を通して戦争と軍事技術の内容にも立ち入ること を目指す。後期の授業では第二次世界大戦期における核研究・核開発とそれが戦後に及ぼした変化 を中心とした事例を扱う。核反応論や同位体元素の分離技術を含む原爆開発の具体的な詳細を検討 しつつ、それによる科学者の社会的な役割の変化、そしてオッペンハイマーという人物の理解に大 きな重点を置く。受講者の関心などによって講義内容を変更することがある。</p>					
[到達目標]					
<p>軍事技術と科学史とのかかわりを通して、科学が社会とどのように相互作用して発展し、性格を変 えていくのかについての理解を深める。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：世界戦略と科学技術</li> <li>2. 20世紀原子物理学の理論と実験</li> <li>3. エックス線と放射能性物質と人体への影響</li> <li>4. 核分裂の発見と連鎖反応の理論</li> <li>5. アインシュタインの責任?：質量欠損および核分裂による電磁的エネルギーの放出</li> <li>6. 英国における核物理、戦時核研究・核開発</li> <li>7. マンハッタン計画(1)</li> <li>8. マンハッタン計画(2)</li> <li>9. オッペンハイマー</li> <li>10. ドイツにおける戦時核研究</li> <li>11. 日本における戦時核研究</li> <li>12. 放射線影響研究と生物学</li> <li>13. 戦後日本における軍事研究と学術会議</li> <li>14. まとめ：軍事研究には良いこともあるのか?</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>					
[履修要件]					
特になし					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート1回 (100%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

M スーザン リンディ 『軍事の科学』 (ニュートンプレス, 2022) ISBN:978-4315526011

ジム・バゴット 『原子爆弾 1938~1950年 いかにも物理学者たちは、世界を残酷と恐怖へ導いていったか?』 (作品#64091, 2015) (品切れ)

カイ・バード, マーティン・シャーウィン 『オープンハイマー 上・中・下』 (早川書房, 2024) ISBN:978-4150506056

伊藤憲二 『励起 仁科芳雄と日本の芸大物理学、下巻』 (みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096191

出口康夫, 大庭弘継編 『軍事研究を哲学する』 (昭和堂, 2022) ISBN:978-4812221297

杉山滋郎 『軍事研究』の戦後史 科学者はどう向きあってきたか』 ISBN:978-4623078622

リチャード・J. サミュエルズ 『富国強兵の遺産 技術戦略にみる日本の総合安全保障』 (三田出版会, 1997) ISBN:978-4895831833

[授業外学修(予習・復習)等]

上記の参考書のほか、適宜参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

軍事研究の科学技術史(1)と軍事研究の科学技術史(2)はそれぞれ単独で履修して構わない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

### 現代文化学3

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science				
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science using a recent textbook, Recipes For Science. The textbook covers basic topics of philosophy of science using many concrete examples from scientific practice. In this semester we go through chapters on the definition of science, experimental method, models, inference and probability. Through lectures and class discussions, this class try to convey the basic concerns of philosophy of science.</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this means understanding philosophical arguments and positions covered in the lecture.</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>The lectures will be given in English, and structured according to the textbook.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 The importance of science</li> <li>2 Defining science</li> <li>3 Recipes for science</li> <li>4 Experiment</li> <li>5 Controlled experiment</li> <li>6 Non-experimental method</li> <li>7 Models in science</li> <li>8 Varieties of models</li> <li>9 Learning from models</li> <li>10 Deductive reasoning</li> <li>11 Hypothesis testing</li> <li>12 Inductive and abductive reasoning</li> <li>13 Roles of statistics and probability</li> <li>14 Probability theory</li> <li>15 Wrap-up</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
<p>No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.</p>					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

### [教科書]

Potochnik, A. et al. 『Recipes for Science: An Introduction to Scientific Methods and Reasoning』 (Routledge)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

### (その他(オフィスアワー等))

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学4

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	英語
題目	気候科学の哲学 Philosophy of Climate Science				
<b>[授業の概要・目的]</b>					
Climate science is a field of research which plays an essential role in policy making as to climate change. Because of the importance, climate science also became a focus of philosophical investigations in recent years. We will look at some basic issues in philosophy of climate science using Eric Winsberg's book, <i>Philosophy and Climate Science</i> , as a guide.					
<b>[到達目標]</b>					
To understand philosophical ways of looking at climate science, and to acquire capacity to analyze them critically.					
<b>[授業計画と内容]</b>					
The lectures will be given in English, and structured according to the textbook.					
1 Introduction 2 Data (1): nature of scientific data 3 Data (2): evidence of warming 4 Models (1): energy balance model 5 Models (2): mediating models 6 Simulations (1): what is computer simulation? 7 Simulations(2):the purposes of climate modeling 8 Probability 9 Confidence (1) sources of uncertainty 10 Confidence (2) quantification of uncertainty 11 Decision (1): probability and inference 12 Decision (2): risk and uncertainty 13 Value (1): risk 14 Value (2): values and biases 15 wrap-up					
<b>[履修要件]</b>					
No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book ( <i>Philosophy of Science: A Very Short Introduction</i> ) is recommended.					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

### [教科書]

Winsberg, E. 『Philosophy and Climate Science』 ( Cambridge University Press )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学5

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 平岡 隆二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	江戸の宇宙観				
[授業の概要・目的]					
江戸時代の天文暦学者たちは、西洋や中国から伝来する古今東西の天文学知識を手掛かりに、独自の宇宙観・自然認識を練り上げていった。その成立と変遷をたどることで、科学史・思想史・日本文化史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。					
[到達目標]					
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。					
[授業計画と内容]					
1．本授業の位置づけ 2・3．近世日本天文学とその史料 4・5．キリシタンと科学伝来 6・7．西学書の渡来と影響 8・9．江戸後期の天文暦学 蘭学と梵暦運動 10～14．書誌調査とその方法 15．フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(70%)とレポート(30%)。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。					
[教科書]					
使用せず、プリントを配布する。					
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----					

## 科学哲学科学史(特殊講義) (2)

### [参考書等]

(参考書)

渡辺敏夫 『近世日本天文学史 上・下』 (恒星社厚生閣、1986-87年)

嘉数次人 『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』 (ちくま書房、2016年)

その他、授業中にも適宜紹介します。

(関連URL)

<http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学6

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』					
藤原辰史『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史『ナチスのキッチン』					
科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く					

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

藤原辰史 『カブラの冬』  
ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』  
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学7

科目ナンバリング	G-LET32 68231 LJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』					
藤原辰史『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史『ナチスのキッチン』					
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』  
ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』  
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学8

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	分類の科学論：歴史的存在論と知識のインフラストラクチャー				
[授業の概要・目的]					
我々はいかに世界の構造を作り上げ、我々自身を作り上げるか？世界の構造の典型が分類であり、分類について語ることは存在論を語ることである。同時に分類は個人によってではなく知識のインフラストラクチャーによってこそ可能になる。従って、分類について語ることは知識のインフラストラクチャーについて語ることでもある。存在論や知識がそれ自体歴史を持つように、分類もまた、それ自体歴史をもつ。従って分類は、科学史あるいは知識の歴史の対象となる。この授業では、歴史的存在論と知識のインフラストラクチャーを横断する、分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の著作のうち、比較的重要で、入門的なものを取り上げ、分類についての科学論の出発点とする。とくに重点を置くのは、精神疾患や生物の分類である。取り上げる文献は、入手可能性、参加者の関心・語学力等に応じて、変更する可能性がある。					
[到達目標]					
分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の入門的な文献の読解を通して、分類についての科学論的理解を深めると同時に、関連分野の文献を理解し、討論する技能を高める。					
[授業計画と内容]					
1) オリエンテーション：ミシェル・フーコー『言葉と物』から「序」					
2) 歴史的存在論：ハッキング『知の歴史学』から第1章「歴史的存在論」(pp. 1 - 66)と第6章「人々を作り上げる」(pp. 209 - 235)					
3) ジェンダーと分類：ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』から「なぜ哺乳類は哺乳類と呼ばれるのか？」(pp. 52 - 88)と「ジェンダーと人種の理論」(pp. 163 - 204)					
4) 体系学の発展と生物学の哲学(1)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第1章「第一幕：薄明の前史 一九三〇年代から一九六〇年代まで」(pp. 21-126)					
5) 体系学の発展と生物学の哲学(2)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第2章「第二幕：論争の発端 一九五〇年代から一九七〇年代まで」(pp. 127-204)					
6) 体系学の発展と生物学の哲学(3)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第3章「第三幕：戦線の拡大 一九七〇年代から現代まで」(pp. 205-308)					
7) 体系学の発展と生物学の哲学(4)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』(勁草書房, 2018)から第4章「生物学の哲学はどのように変容したか：科学と科学哲学の共進化の現場から」(pp. 309-344)					
8) 体系学論争を越えて：Beckett Sterner and Scott Lidgard, "Moving Past the Systematics Wars," Journal of the History of Biology 51 (2018): 31-67.					
9) 分類とインフラストラクチャー(1): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, <i>Sorting Things Out: Classification and Its Consequences</i> (MIT Press, 1999), "Introduction"(pp. 1-32), Chapter 1 "Some Tricks of					
科学哲学科学史(演習)(2)へ続く					

## 科学哲学科学史(演習)(2)

the Trade in Analyzing Classification" (pp. 33-50).

10) 分類とインフラストラクチャー(2): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "I. Classification and Large-Scale Infrastructure"(p. 51), Chapter 2, "The Kindness of Strangers: Kinds and Politics in Classification Systems," (pp. 53-106)

11) 分類とインフラストラクチャー(3): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), Chapter 3, "The ICD as Information Infrastructure"(pp. 107-133) (Chapter 4, "Classification, Coding, and Coordination," pp. 135-161).

12) 分類とインフラストラクチャー(4): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "IV The Theory and Practice of Classifications"(pp. 283-284), Chapter 9, "Categorical Work and Boundary Infrastructures: Enriching Theories of Classification"(pp. 285-317), Chapter 10, "Why Classifications Matter" (pp. 319-326)

13) 種問題の科学哲学: 網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, (2020)から、第一章「種問題とは何か」、第四章「「投げ捨てられることもあるはしご」としての種」

14) 分類と種問題に対する実践的・新物質主義的アプローチ

David Ludwig, "From Naturalness to Materiality: Reimagining Philosophy of Scientific Classification," *European Journal for Philosophy of Science* 13, 8 (2023). <https://doi.org/10.1007/s13194-023-00509-w>.

15) フィードバック

(参加者の関心によって内容を変えることがある)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(授業参加・担当箇所の発表) (50%)

レポート1回(50%)

ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

### 【教科書】

三中信宏『系統体系学の世界』(勁草書房, 2018) ISBN:978-4326154517

Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star『Sorting Things Out: Classification and Its Consequences』(MIT Press, 1999) ISBN:978-0262269070 (附属図書館で電子書籍を所蔵)

その他の文献は配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

ハッキング『知の歴史学』(岩波書店, 2012) ISBN:978-4000238779

網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, 2020) ISBN:978-4326102884

### 【授業外学修(予習・復習)等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学9

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践(書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法)					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査/資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
科学哲学科学史(演習)(2)へ続く					

## 科学哲学科学史(演習)(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

(履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点 (授業参加) (50%)

課題2回 (50%)

### [教科書]

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

### [参考書等]

(参考書)

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 (筑摩書房, 2023) ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 (NHK出版, 2022) ISBN: 978-4140912720

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

### (その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学10

科目ナンバリング	G-LET32 78241 SJ34				
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	化学の哲学				
[授業の概要・目的]					
化学はどのような点で哲学の問題となるだろうか。この問題を考える化学の哲学は1990年代から分野としての形を整え、次第に科学哲学の一分野としての存在感を増している。この授業では、近年の論文集からいくつかの論文を読むことで、化学と物理学の関係や化学の存在論など化学の哲学の主要なテーマについて理解を深める。					
[到達目標]					
化学の哲学における主要なテーマと主な立場を理解し、それらの立場を批判的に検討できるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の論文集からいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Scerri, E. and Fisher, G. eds. (2016) Essays in the Philosophy of Chemistry. Oxford University Press. (S&F) Scerri, E. and McIntyre, L. eds, (2015) Philosophy of Chemistry: Growth of a New Discipline. Springer. (S&M)					
基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。					
授業の進行は以下のとおり。					
イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Scerri "The changing views of a philosopher of chemistry on the question of reduction (2回) (S&F) Manafu "A novel approach to emergence in chemistry" (2回) (S&M) Harre "Causality in chemistry; regularities and agencies (3回) (S&F) Chang "Scientific realism and chemistry" (3回) (S&F) Hendry "Natural Kinds in Chemistry" (2回) (S&F) Needam "One substance or more?" (2回) (S&M)					
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----					

## 科学哲学科学史(演習)(2)

### 【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。  
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

### 【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学11

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34			
授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	確率の哲学				
【授業の概要・目的】					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する(担当者は事前に決めておく)。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) La Caze "Frequentism" (3回) Zynda "Subjectivism" (3回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Millstein "Probability in biology" (3回) Kotzen "Probability in Epistemology" (3回)</p>					
【履修要件】					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準</p>					
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----					

科学哲学科学史(演習)(2)

になる。

**[教科書]**

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学12

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学社会学部メディア学科 河崎 吉紀 教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
コミュニケーション論をふまえつつ、メディア産業と文化の関係を取り上げ、メディアの社会的な機能や効果について学説を紹介する。文献の講読を行う場合がある。					
[到達目標]					
メディアが文化や社会に与える影響について、これまでどのように論じられてきたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 第2回 非言語のコミュニケーション(1) 第3回 非言語のコミュニケーション(2) 第4回 言語によるコミュニケーション(1) 第5回 言語によるコミュニケーション(2) 第6回 メディア産業と文化(1) 第7回 メディア産業と文化(2) 第8回 メディア産業と文化(3) 第9回 メディアの社会的機能(1) 第10回 メディアの社会的機能(2) 第11回 メディアの社会的機能(3) 第12回 メディアの効果(1) 第13回 メディアの効果(2) 第14回 メディアの効果(3) 第15回 期末試験 第16回 フィードバック 授業計画を変更し、特定の内容を集中的に取り上げる可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 30% 受講態度を評価する。 期末試験 70% 授業の内容において出題する。					
[教科書]					
使用しない					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に紹介された参考書や論文を読む。

**(その他(オフィスアワー等))**

質問は授業終了後に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	医療・衛生から見る近代日朝関係史				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、朝鮮の開国(1876年)から日本の植民地統治期(1910~1945年)を対象として、朝鮮において近代医学がどのように導入され、朝鮮社会にどのような影響をもたらしたか、また、朝鮮社会がどのように対応したのかを考える。</p> <p>前近代朝鮮において形成された伝統医学(韓医学)は、近代に入り欧米の宣教師と日本人によってもたらされた医学知識・医療施設の影響を受けつつ、大韓帝国(1897年~)の医療制度整備に組み込まれた。しかし、日本の韓国併合(1910年)以降、伝統医学は周辺化され、西洋医学を主体とした病院・医学教育機関の整備が進められた。</p> <p>近代朝鮮における伝統医学と西洋医学の葛藤、医学を通じた植民地支配体制の確立、植民地を対象とした医学研究、朝鮮人知識人・朝鮮社会の衛生論と朝鮮民衆、等々の問題を最新の研究に即して考察する。全体を、I朝鮮開港~韓国併合、II1910年代、III1920年代~30年代前半、IV戦時期に分け、各時期の医療衛生制度の特徴を概説するとともに、それぞれの時代を特徴的に表すテーマを取り上げ「トピック」として論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>コロナパンデミックによって、国境を越えた感染症の歴史が改めて注目されている。講義の履修によって、第一に、近代日朝・日韓関係史についての基本的な歴史の流れを把握することができる。第二に、植民地医学研究における基本的な概念を理解することができよう。これらをベースとして、第三に、近代転換期における朝鮮の医療体制の形成、植民地期における日本の朝鮮支配政策と医療・医学の関係について知識を深めることができるだろう。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス：近代の中の日朝関係と医療・衛生				
第2回	I 朝鮮における西洋医学の流入(1)				
第3回	朝鮮における西洋医学の流入(2)				
第4回	トピック：大韓帝国期・漢城の水道整備				
第5回	トピック：日本赤十字社と大韓帝国				
第6回	II 植民地期初期の医療体制				
第7回	トピック：売買春制度の形成				
第8回	トピック：軍医と植民地医療				
第9回	III 1920年代における医療政策・医学研究の変化(1)				
第10回	1920年代における医療政策・医学研究の変化(2)				
第11回	トピック：志賀潔と朝鮮				
第12回	トピック：京城帝国大学とロックフェラー財団				
第13回	IV 戦時期の医療衛生(1)				
第14回	戦時期の医療衛生(2)				
第15回	朝鮮解放と医療				
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

レポート(60%)、授業への参加(40%。随時小テストを行う)をもとに評価します。

**[教科書]**

毎回レジュメを配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に紹介する文献を読み各自で理解を深めてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学14

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸市外国語大学外国語学部 山本 昭宏 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「戦後」日本文化史研究 小説・映画・マンガ				
[授業の概要・目的]					
この授業では、「戦争が生み出した表現」という観点から「戦後」日本文化史を辿る。なお、この授業でいうところの「戦後」は、便宜的に1945年から73年までを指すが、この期間の文化史を考える際には、それ以前と以後の時代を踏まえる必要がある。そのため、授業では適宜「戦後」の枠を越えた議論を行うだろう。対象は小説・映画・マンガだが、文学研究・映像研究・マンガ研究という個別の方法論に即して論じるのではなく表象論と思想史研究によって各ジャンルを横断的に論じる。					
[到達目標]					
到達目標は以下のとおりである。 (1) 戦後史および文化史の基本的事項を理解すること。 (2) 個別の表現ジャンルの動向を、同時代の他のジャンルや思想と関連付けて説明できるようになること。 (3) 表現者や文化産業の動向を、「戦争が生み出した文化」という観点で説明できるようになること。					
[授業計画と内容]					
以下の授業計画はあくまで予定であり、受講生の関心に応じて微修正を行う。					
1、「戦後」「日本」「文化」を論じるとはどのようなことか?(ガイダンス) 成績評価の説明					
2、占領下の文化 映画 黒澤明を中心に					
3、占領下の文化 文学 戦後派の小説を読む					
4、占領下の文化 漫画 手塚治虫を中心に					
5、1950年代の文化と政治 50年代概説					
6、50年代の文化 新世代の文学 石原・開高・大江を中心に					
7、50年代の文化 木下恵介・今井正と戦後民主主義					
8、1960年代 松竹ヌーベルバーグと「政治」					
9、60年代の文化 漫画雑誌の布置 少年漫画・少女漫画・貸本漫画					
10、60年代の文化 水木しげるの表現					
11、60年代の文化 サブカルチャーとアングラ 映画と音楽					
13、60年代の文化 補遺					
14、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺					
15、「戦後」「日本」「文化」とは何だったのか? 授業のふりかえりと補遺					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）40点、期末の筆記試験60点で評価する。

### 【教科書】

授業中に指示する  
授業中に配布するレジュメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する  
参考文献については、授業中に適宜指示します。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学15

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化と芸術存在論				
[授業の概要・目的]					
<p>芸術存在論(ontology of art)は、現代英語圏の芸術哲学(いわゆる分析美学)の一分野である。芸術存在論では、芸術作品や芸術的パフォーマンスがどのようなあり方で存在しているのか(それらはどんな種類の存在者なのか)、芸術形式ごとに作品の存在のあり方はどのように異なるのか、作品の同一性は何によって決まるのか、といった問題が論じられる。</p> <p>従来の芸術存在論で扱われてきたのは、主に音楽(クラシック音楽)や文学や絵画・彫刻のようなオーソドックスな芸術形式だった。一方で、現代の文化(とりわけポピュラーカルチャー)の中には、きわめて多様な文化形式のアイテムがある(「芸術」と呼びづらいようなものも含め)。</p> <p>この講義では、そうした現代の諸文化形式のアイテムがそれぞれどのようなあり方で存在しているのかについて、芸術存在論の観点と道具立てを使って考えてみたい。</p> <p>芸術存在論は、それ自体としては純粋に哲学的な関心でなされるものだが、作品の批評、作品の修復や保存、贋作と真作の区別、さらには著作権のような作品の法律上の取り扱いといった実践的な諸問題にも直結する。</p> <p>授業の目的は、一方では芸術存在論を通して現代文化の一面を明らかにすることにあるが、もう一方では現代文化にそれを適用することを通して芸術存在論の有用さと不十分さをはっきりさせることにもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術存在論の基本的な考え方と概念を理解する。</li> <li>・諸々の芸術形式の存在論的な違いを理解する。</li> <li>・現代文化を存在論の枠組みから眺める視点を得る。</li> <li>・芸術存在論の実践的な意義や応用可能性を理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス				
第2回	芸術存在論の問いとモチベーション				
第3回	芸術存在論の基本概念				
第4回	音楽の存在論				
第5回	ポピュラー音楽の存在論				
第6回	ピエール・メナールのケース				
第7回	贋作について				
第8回	「未完の作品」について				
第9回	デジタル画像の存在論				
第10回	ビデオゲームの存在論				
メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く					

## メディア文化学(特殊講義)(2)

- 第11回 フィクショナルキャラクターの存在論
- 第12回 VTuberの存在論
- 第13回 生成AIと芸術存在論
- 第14回 「アウラ」とブロックチェーン
- 第15回 フィードバック

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点：50%

期末レポート：50%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「独特の存在のあり方をしていると思われるアイテムを挙げ、それを授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

### (その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学16

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「学徒出陣」を考える				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、「学徒出陣」について考察する。「学徒出陣」とは、一般的にアジア・太平洋戦争時における学生生徒の陸海軍への入隊を指す用語であり、世間的にも広く知られているものだが、学問的分析はほとんど行われていないのが実態である。本講義では、近代日本における兵役と学徒との関係、軍隊における学徒兵の位置づけ、入隊後の学徒兵の実態、「学徒出陣」に関する戦後の語りなど、「学徒出陣」を総合的・実証的に検討することを目的とする。さらにこの検討を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深めることも目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を読み込むことにより、「学徒出陣」の制度・背景・多様性およびそれぞれの時代状況について理解する。</li> <li>・「学徒出陣」についての理解を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深める。</li> </ul>					
【授業計画と内容】					
第1回	学徒出陣とはなにか				
第2回	兵役と学徒				
第3回	日中戦争期の学徒(1)				
第4回	日中戦争期の学徒(2)				
第5回	1943年夏の大量動員				
第6回	戦時体制下の高等教育				
第7回	学徒の一斉入隊(1)				
第8回	学徒の一斉入隊(2)				
第9回	戦争末期の学徒出陣				
第10回	学徒兵の残した記録(1)				
第11回	学徒兵の残した記録(2)				
第12回	学徒兵の残した記録(3)				
第13回	学徒出陣の戦後(1)				
第14回	学徒出陣の戦後(2)				
第15回	(まとめ)フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント</p>					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く					

メディア文化学(特殊講義)(2)

30%、レポート70%とする。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学17

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学デザイン学部 蘆田 裕史 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ファッション論入門				
[授業の概要・目的]					
<p>私たちはみな、衣服を身に着けて社会生活を送っている。しばしば「ファッションに興味がない」と主張する人がいるが、そのような人であっても衣服なしで生活できるわけではない。つまり、関心があるとなかろうと、ファッションは私たちにとって必要不可欠なものなのである。なぜ私たちはファッションを必要とするのか。この授業では、ファッションにまつわる様々なトピックを論じることで、ファッションについて考えると同時に、ファッションを通して人間や社会について考えることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"><li>・ファッション論の基本的事項を理解する。</li><li>・社会におけるさまざまな事象や行為をファッションの観点から考察できるようになる。</li></ul>					
[授業計画と内容]					
<p>イントロダクション：ファッションの定義 ファッションと社会：流行のメカニズム ファッションと社会：消費の諸様態 ファッションとコミュニケーション：ファッションのもつ意味 ファッションとアイデンティティ：インターフェイスとしてのファッション ファッションと倫理：他者を傷つけずにファッションを楽しむことは可能か ファッションと美：外見を気にするのは軽薄なのか ファッションと身体：衣服は第二の皮膚なのか ファッションとジェンダー：ファッションを通じて作られる「女らしさ/男らしさ」 ファッションと産業：ファッションは文化かビジネスか ファッションと環境：サステナブルファッションの展開 ファッションとメディア：イメージの生成と伝播 ファッションとデザイン：ファッションデザイナーはなにをデザインしているのか ファッションとアート：美術家はファッションをどのように捉えてきたか フィードバック</p> <p>授業の進行具合によって各回の順番や内容が変わる可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----					

メディア文化学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

講義への参加度：60%（毎回のコメントシートによって評価します）  
レポート：40%

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

日常的にファッションに関連する事項について考えるようにし、それをコメントシートや授業中の質問などに反映させてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業時以外に連絡する必要がある場合はEメール（ashida@kyoto-seika.ac.jp）でお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学18

科目ナンバリング	G-LET37 68931 LJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 耕平		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
本講義では、私たちの社会で行われている「社会調査」について、その歴史や目的および意義、設計に関する基本的な考え方、具体的な調査手法の種類や特徴、自分たちが調査を行なうときには気をつけるべきこと、といった基本的事項を学ぶ。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。					
[到達目標]					
社会調査の目的や歴史を学び、調査の種類や仮説の立て方、対象者の選び方といった社会調査を設計する上でのもっともベーシックな知識とスキルを身につけるとともに、メディアを通じて触れるさまざまな社会調査の結果を適切に読み解くリサーチ・リテラシーを習得する。					
[授業計画と内容]					
1. イントロダクション(授業の目標、進め方、評価方法など) 2. 社会調査の目的とリサーチ・リテラシー 3. 社会調査の種類 4. 社会調査における仮説設定 5. 社会調査のサイクル 問題発見と仮説検証 6. 既存統計の利用 7. サンプリングと総調査誤差 8. 調査票の設計 9. 社会調査の歴史 10. 質問紙調査の事例 11. インタビュー調査の事例 12. 参与観察の事例 13. 相互行為分析の事例 14. ドキュメント分析の事例 15. 社会調査の倫理					
[履修要件]					
特になし					
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

ワーク(50%)：各回の授業内容に関連した小テストないし小レポート。授業内容を踏まえた答案を作成できているかどうかで評価される。

期末レポート(50%)：授業で学んだ調査方法を用いた社会調査のプランを作成する。授業で学んだ諸点を踏まえてテーマ設定ができているか、調査のテーマに適合的な方法や対象者を根拠にもとづいて選択しているか、倫理的な配慮がなされているか、などの点から評価される。

### [教科書]

特に指定しない。適宜、リーディング・アサインメントとして資料を配布する。

### [参考書等]

(参考書)

松木洋人・中西泰子・本多真隆(編)『基礎からわかる社会学研究法 具体例で学ぶ研究の進めかた』(ミネルヴァ書房,2023年)

松本渉『社会調査の方法論』(丸善出版,2021年)

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』(有斐閣,2013年)

井頭昌彦(編)『質的研究アプローチの再検討 人文・社会科学からEBPsまで』(勁草書房,2023年)

ジェリー・Z・ミュラー『測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?』(みすず書房,2019年)

### [授業外学修(予習・復習)等]

リーディング・アサインメントが配布された際は、予習として通読してくることが求められる。

期末レポートの作成のため、関心のある調査テーマおよび調査手法、調査倫理について、自身でリサーチすることが求められる。

### (その他(オフィスアワー等))

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36			
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都精華大学メディア表現学部 谷口 文和 准教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	音楽のポピュラリティとその価値				
[授業の概要・目的]					
<p>多くの人が身近に慣れ親しんでいるという意味で、音楽はポピュラーな文化の一つである。しかしその身近さゆえか、音楽がどうしても多くの人を惹きつける価値を持つのかをとらえようとしても、「カッコいい」「癒やされる」「共感できる」といった漠然とした思考に陥ってしまいがちである。そこで本講義では、こんにちの音楽が帯びる「ポピュラーなもの」としての価値のありように分け入り、上記のような感覚をより詳細に言語化していくことを試みる。</p> <p>本講義では特に、音楽のポピュラリティという問題について、メディアの作用(mediation)という切り口から検討する。音が人間にとって根源的なコミュニケーション・メディアであると同時に、はかなく消えてしまう音を記録し広めるメディア(楽譜や録音、放送、インターネットetc.)があり、音楽はその二重のメディアの上に成り立つ表現である。この構造の中で音楽の価値や聴覚的・身体的経験がどのように媒介されているのかに着目する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽をメディア文化の一種として理解できる</li> <li>・音の聴覚性や身体性を経験の構造という側面から考察できる</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
第1回	導入：メディアから見た音楽のポピュラリティ				
第2回	メディアにおける聴覚性の問題				
第3回	音楽の客体化と作品概念				
第4回	複製技術と音楽の商品化				
第5回	録音技術の歴史(1)：初期の録音体験				
第6回	録音技術の歴史(2)：レコード産業の成立				
第7回	録音技術の歴史(3)：あらゆる音を音楽にする試み				
第8回	美的概念としてのサウンド(1)：理論化をめぐる問題				
第9回	美的概念としてのサウンド(2)：拡張される身体				
第10回	美的概念としてのサウンド(3)：リアリティの変容				
第11回	レコード音楽とライブ音楽の相互作用				
第12回	レコード文化における音楽体験の多様性				
第13回	脱パッケージ時代(1)：ビジネスモデルの変化				
第14回	脱パッケージ時代(2)：レコード/ライブの再編				
第15回	全体のまとめ				
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----					

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業内小レポート 60%

最終レポート 40%

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

谷口文和、中川克志、福田裕大『音響メディア史』(ナカニシヤ出版) ISBN:9784779509513 (音響メディアにまつわる基本事項をまとめてあり、授業内でも随時参照する。)

(関連URL)

<http://taninen.jp/>(講師の個人ウェブサイト)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で提示される問いかけについて、必要なりサーチを行い、自身の見解をまとめること。また、授業内で音源・映像を紹介できる時間が限られているため、プレイリストなどを通じて多様な音楽に触れる時間を作るよう心がけること。最終レポート作成に向けて、自身が特に関心をもったトピックに関する文献を探し、読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問はメール(taninen@kyoto-seika.ac.jp)で随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学20

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IA) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法(前期)				
[授業の概要・目的]					
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。					
[到達目標]					
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせ研究を行うことができる基礎力を養う。					
[授業計画と内容]					
第1回 オリエンテーション 第2回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第3回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第4回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第5回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第6回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第7回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第8回 オートエスノグラフィーによるメディア文化調査 第9回 映像分析を用いた論文調査 第10回 映像分析を用いた論文調査 第11回 映像分析の実践 第12回 映像分析の実践 第13回 映像分析の実践 第14回 映像分析の実践 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(課題60%、発表40%)					
[教科書]					
使用しない					
-----メディア文化学(演習IA)(2)へ続く-----					

## メディア文化学(演習IA)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年) ISBN:9784788510951

藤田真文編著 『メディアの卒論 第2版』 (ミネルヴァ書房、2016年) ISBN:9784623077199

トニー・アダムス他著 『オートエスノグラフィー』 (新曜社、2022年) ISBN:4788517922

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

### (その他(オフィスアワー等))

PandAおよびscrapboxにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学21

科目ナンバリング	G-LET37 78941 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学(演習IB) Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化研究の手法(後期)				
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学(いわゆる分析美学)は、ある種の思考の割り切り(単純化と明晰さ)をベースにしつつ、活発な議論(批判と反論の応酬)を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、理論的なテキストを正確に読解することを通して、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げるテキストは、現代の身近な文化実践を考える上で役に立ちそうな分析美学の古典的文献や最近の論文になる予定。いずれにせよ日本語のテキスト(邦訳の場合はできるだけ原文も付ける)になる。昨年度は、ケンダル・ウォルトン「芸術のカテゴリー」とケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か』を取り上げた。</p> <p>授業の補助ツールとしてDiscordを利用する。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを正確・厳密に読むという態度を身につける。</li> <li>・分析美学のトピックと考え方に触れる。</li> <li>・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は、各回数人ずつに担当箇所を割り振り、それぞれの担当者がレジюмеを作成するというかたちの輪読形式を進める。場合によっては、レジюме担当者に加えて質問担当者の役割を設ける可能性がある。</p>					
<b>[履修要件]</b>					
必須ではないが、系共通科目(メディア文化学)講義Aを受講済みであることが望ましい。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
<p>期末レポート：40% 平常点：60%</p> <p>期末レポートは、教員がピックアップした日本語論文のリストからひとつを選んでレジюмеを作成</p>					
----- メディア文化学(演習IB)(2)へ続く -----					

## メディア文化学(演習IB)(2)

するという課題になる予定。

平常点は、レジュメ作成の担当実績・クオリティと、授業内での積極的な参加度で評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

レジュメ担当になっていない場合でも、次回の授業で読むテキストの範囲を毎回予習しておくことが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

授業外での質問は、基本的にメールまたはDiscordのDMをお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学22

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	分類の科学論：歴史的存在論と知識のインフラストラクチャー				
[授業の概要・目的]					
我々はいかに世界の構造を作り上げ、我々自身を作り上げるか？世界の構造の典型が分類であり、分類について語ることは存在論を語ることである。同時に分類は個人によってではなく知識のインフラストラクチャーによってこそ可能になる。従って、分類について語ることは知識のインフラストラクチャーについて語ることでもある。存在論や知識がそれ自体歴史を持つように、分類もまた、それ自体歴史をもつ。従って分類は、科学史あるいは知識の歴史の対象となる。この授業では、歴史的存在論と知識のインフラストラクチャーを横断する、分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の著作のうち、比較的重要で、入門的なものを取り上げ、分類についての科学論の出発点とする。とくに重点を置くのは、精神疾患や生物の分類である。取り上げる文献は、入手可能性、参加者の関心・語学力等に応じて、変更する可能性がある。					
[到達目標]					
分類についての科学史、科学社会学、科学哲学の入門的な文献の読解を通して、分類についての科学論的理解を深めると同時に、関連分野の文献を理解し、討論する技能を高める。					
[授業計画と内容]					
1) オリエンテーション：ミシェル・フーコー『言葉と物』から「序」					
2) 歴史的存在論：ハッキング『知の歴史学』から第1章「歴史的存在論」（pp. 1 - 66）と第6章「人々を作り上げる」（pp. 209 - 235）					
3) ジェンダーと分類：ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』から「なぜ哺乳類は哺乳類と呼ばれるのか？」（pp. 52 - 88）と「ジェンダーと人種の理論」（pp. 163 - 204）					
4) 体系学の発展と生物学の哲学(1)：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第1章「第一幕：薄明の前史 一九三〇年代から一九六〇年代まで」（pp. 21-126）					
5) 体系学の発展と生物学の哲学（2）：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第2章「第二幕：論争の発端 一九五〇年代から一九七〇年代まで」（pp. 127-204）					
6) 体系学の発展と生物学の哲学（3）：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第3章「第三幕：戦線の拡大 一九七〇年代から現代まで」（pp. 205-308）					
7) 体系学の発展と生物学の哲学（4）：三中信宏『系統体系学の世界：生物学の哲学とたどった通のり』（勁草書房, 2018）から第4章「生物学の哲学はどのように変容したか：科学と科学哲学の共進化の現場から」（pp. 309-344）					
8) 体系学論争を越えて：Beckett Sterner and Scott Lidgard, "Moving Past the Systematics Wars," Journal of the History of Biology 51 (2018): 31-67.					
9) 分類とインフラストラクチャー(1): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, <i>Sorting Things Out: Classification and Its Consequences</i> (MIT Press, 1999), "Introduction"(pp. 1-32), Chapter 1 "Some Tricks of					
メディア文化学（演習II）(2)へ続く					

## メディア文化学（演習II）(2)

the Trade in Analyzing Classification" (pp. 33-50).

10) 分類とインフラストラクチャー(2): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "I. Classification and Large-Scale Infrastructure"(p. 51), Chapter 2, "The Kindness of Strangers: Kinds and Politics in Classification Systems," (pp. 53-106)

11) 分類とインフラストラクチャー(3): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), Chapter 3, "The ICD as Information Infrastructure"(pp. 107-133) (Chapter 4, "Classification, Coding, and Coordination," pp. 135-161).

12) 分類とインフラストラクチャー(4): Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star, *Sorting Things Out: Classification and Its Consequences* (MIT Press, 1999), "IV The Theory and Practice of Classifications"(pp. 283-284), Chapter 9, "Categorical Work and Boundary Infrastructures: Enriching Theories of Classification"(pp. 285-317), Chapter 10, "Why Classifications Matter" (pp. 319-326)

13) 種問題の科学哲学：網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』(勁草書房, (2020)から、第一章「種問題とは何か」、第四章「「投げ捨てられることもあるはしご」としての種」

14) 分類と種問題に対する実践的・新物質主義的アプローチ

David Ludwig, "From Naturalness to Materiality: Reimagining Philosophy of Scientific Classification," *European Journal for Philosophy of Science* 13, 8 (2023). <https://doi.org/10.1007/s13194-023-00509-w>.

15) フィードバック

(参加者の関心によって内容を変えることがある)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業参加・担当箇所の発表）（50%）

レポート1回（50%）

ただし、発表回数によってはレポートを免除することがある。

### 【教科書】

三中信宏『システム学の世界』（勁草書房, 2018）ISBN:978-4326154517

Geoffrey C. Bowker and Susan Leigh Star『Sorting Things Out: Classification and Its Consequences』（MIT Press, 1999）ISBN:978-0262269070（附属図書館で電子書籍を所蔵）

その他の文献は配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

ハッキング『知の歴史学』（岩波書店, 2012）ISBN:978-4000238779

網谷祐一『種を語る事、定義すること 種問題の科学哲学』（勁草書房, 2020）ISBN:978-4326102884

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

メディア文化学（演習II）(3)へ続く

メディア文化学（演習Ⅱ）(3)

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学23

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	科学史研究法：理論と実践				
[授業の概要・目的]					
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。					
[到達目標]					
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。					
[授業計画と内容]					
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。					
理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習					
実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。					
ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。					
1. ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール					
2. 理論：実験と研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy”					
実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書					
レポート課題1発表					
3. 理論：技術の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing”					
実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他					
4. 理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology”					
実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）					
5. 理論：実験室の科学史: Shapin, “House of Experiment”					
実践：リーディングとノートテイキングの技法					
課題1レポート提出期限					
6. 研究計画書ワークショップ					
7. 理論：非西洋科学: Hart, “On the Problem of Chinese Science”					
実践：書評と査読					
レポート課題2発表					
8. 理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone”					
実践：アーカイブズ調査/資料撮影とその整理					
9. 理論：科学と表象: Martin, “Toward an Anthropology of Immunology”					
実践：新聞データベースの利用					
10. 理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory”					
メディア文化学（演習II）(2)へ続く					

## メディア文化学（演習II）(2)

実践：学会発表とスライド

11. 理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “ Institutional Ecology ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12. 理論：実験と物質の科学論: Pickering, “ The Mangle of Practice ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13. 理論：新物質主義とフェミニズム: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14. 書評 / 査読報告ワークショップ

15. フィードバック

（履修者の関心と必要に応じて内容を変えることがある）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業参加）（50%）

課題2回（50%）

### 【教科書】

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

トーマス・S・マラニー, クリストファー・レア 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』（筑摩書房, 2023）ISBN:978-4480837257

戸田山 和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK出版, 2022）ISBN: 978-4140912720

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学24

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	化学の哲学				
[授業の概要・目的]					
化学はどのような点で哲学の問題となるだろうか。この問題を考える化学の哲学は1990年代から分野としての形を整え、次第に科学哲学の一分野としての存在感を増している。この授業では、近年の論文集からいくつかの論文を読むことで、化学と物理学の関係や化学の存在論など化学の哲学の主要なテーマについて理解を深める。					
[到達目標]					
化学の哲学における主要なテーマと主な立場を理解し、それらの立場を批判的に検討できるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の論文集からいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Scerri, E. and Fisher, G. eds. (2016) Essays in the Philosophy of Chemistry. Oxford University Press. (S&F) Scerri, E. and McIntyre, L. eds, (2015) Philosophy of Chemistry: Growth of a New Discipline. Springer. (S&M)					
基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。					
授業の進行は以下のとおり。					
イントロダクション(1回) 学生による発表担当 Scerri "The changing views of a philosopher of chemistry on the question of reduction (2回) (S&F) Manafu "A novel approach to emergence in chemistry" (2回) (S&M) Harre "Causality in chemistry; regularities and agencies (3回) (S&F) Chang "Scientific realism and chemistry" (3回) (S&F) Hendry "Natural Kinds in Chemistry" (2回) (S&F) Needam "One substance or more?" (2回) (S&M)					
[履修要件]					
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。					
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く					

## メディア文化学（演習II）(2)

### 【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。  
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

### 【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学25

科目ナンバリング	G-LET37 78944 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	確率の哲学				
【授業の概要・目的】					
<p>確率の哲学は哲学の諸問題だけでなく隣接するさまざまな問題領域に適用される応用範囲の広い分野である。しかしその基礎概念は必ずしもよく理解されているとは言えない。この演習では確率の哲学に関するアンソロジーを利用して、この分野についてのより正確で深い理解を身に付けていくことを目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>確率の哲学の様々な立場を正しく理解し、それらを批判的に検討できるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Hajek, A. and Hitchcock, C. eds. (2016) The Oxford Handbook of Probability and Philosophy. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) La Caze "Frequentism" (3回) Zynda "Subjectivism" (3回) Gillies "The propensity interpretation" (2回) Millstein "Probability in biology" (3回) Kotzen "Probability in Epistemology" (3回)</p>					
【履修要件】					
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準</p>					
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----					

メディア文化学（演習II）(2)

になる。

**【教科書】**

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学26

科目ナンバリング	G-LET37 7M432 SJ36				
授業科目名 <英訳>	メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究の諸問題（大学院）				
【授業の概要・目的】					
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。					
【到達目標】					
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。					
【授業計画と内容】					
第1回－第2回: 研究テーマに関する個人面談 第3回－第14回: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 第15回：フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（報告内容50%、および他者の報告に応じた適切な発言内容および発言頻度50%）					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） なし					
【授業外学修（予習・復習）等】					
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。					
（その他（オフィスアワー等））					
専修のDiscordを連絡手段として活用する。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

## 現代文化学27

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	米・中東関係の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については(当事国である米国においてさえ)正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>					
[到達目標]					
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>					
[授業計画と内容]					
以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(1回)</li> <li>2. 中東の近代: Western impactから主権国家システムの生成(2回)</li> <li>3. 西側統合政策の展開と挫折(1950年代)(4回)</li> <li>4. オフショア・バランスの時代(1960-80年代)(3回)</li> <li>5. 覇権的政策の盛衰(1990年代以降)(4回)</li> <li>6. まとめとフィードバック(1回)</li> </ol>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポート					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）  
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に適宜指示する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系(生活環境学部)教授 林田 敏子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー—軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊(前線)と家庭(銃後)という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」</li> <li>2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点</li> <li>3. 女性の戦時動員とセクシュアリティ</li> <li>4. 第一次世界大戦と女性部隊</li> <li>5. 第二次世界大戦と女性部隊</li> <li>6. 軍隊のなかのジェンダー秩序 制服の下の女らしさー</li> <li>7. 軍隊のなかのジェンダー秩序 誰が引き金を引くか</li> <li>8. 近代戦とマスキュリニティ</li> <li>9. 軍隊とマスキュリニティ 兵士になれない男たち</li> <li>10. 軍隊とマスキュリニティーシェルショック</li> <li>11. 軍隊と同性愛 排除が黙認かー</li> <li>12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦</li> <li>13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶</li> <li>14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦</li> <li>15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに</li> </ol>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

授業中に出される課題（30％）、学期末のレポート（70％）で成績を評価する。  
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学29

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	同志社大学社会学部メディア学科 河崎 吉紀 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目					
[授業の概要・目的]					
コミュニケーション論をふまえつつ、メディア産業と文化の関係を取り上げ、メディアの社会的な機能や効果について学説を紹介する。文献の講読を行う場合がある。					
[到達目標]					
メディアが文化や社会に与える影響について、これまでどのように論じられてきたのかを理解する。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション 第2回 非言語のコミュニケーション(1) 第3回 非言語のコミュニケーション(2) 第4回 言語によるコミュニケーション(1) 第5回 言語によるコミュニケーション(2) 第6回 メディア産業と文化(1) 第7回 メディア産業と文化(2) 第8回 メディア産業と文化(3) 第9回 メディアの社会的機能(1) 第10回 メディアの社会的機能(2) 第11回 メディアの社会的機能(3) 第12回 メディアの効果(1) 第13回 メディアの効果(2) 第14回 メディアの効果(3) 第15回 期末試験 第16回 フィードバック 授業計画を変更し、特定の内容を集中的に取り上げる可能性がある。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点 30% 受講態度を評価する。 期末試験 70% 授業の内容において出題する。					
[教科書]					
使用しない					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に紹介された参考書や論文を読む。

**(その他(オフィスアワー等))**

質問は授業終了後に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学30

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食をめぐる研究の方法</li> <li>2 明治大正期の食</li> <li>3 アジア太平洋戦争までの食</li> <li>4 戦後の食</li> <li>5 牛乳の歴史学</li> <li>6 品種改良の歴史学</li> <li>7 フィードバック</li> </ol>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末にレポートを課す。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
					----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』  
湯澤規子他編 『食と農の人文学』』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学31

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 食糧戦争としての第一次世界大戦					
2 有機農業の歴史					
3 毒ガスと農薬の歴史					
4 トラクターの歴史					
5 戦時期の農村女性たち					
6 食糧戦争としての第二次世界大戦					
7 フィードバック					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『カブラの冬』  
ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』  
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	京都の近代をめぐる政治文化史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代京都をめぐる政治史と文化史から複眼的に考察する。1869年の東京遷都、1889年の帝都東京と明治宮殿の落成により、歴史都市、古都としての京都が国土のなかで定置される。古都京都のイメージとしては、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期から1930年代の大衆社会状況とともに、祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることは、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮の中にあつた。また昨年度後期に引き続き、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娯妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。花街・遊廓としての祇園・宮川町・七条新地・橋本などを例に、芸娯妓の心性、肉声、悩みに迫りたい。</p>					
[到達目標]					
注のある形式の論文が作成できる。「京都の近代をめぐる政治文化史」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統種を重んじる京都の桜とソメイヨシノの近現代</li> <li>・ 明治維新と京都</li> <li>・ 1869年東京遷都と皇室の文化の変容</li> <li>・ 1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」</li> <li>・ 帝都東京と古都京都</li> <li>・ 1895年の平安遷都千百年記念祭と平安時代</li> <li>・ 大正期の南蛮・キリシタン・安土桃山文化顕彰</li> <li>・ 名所、嵯峨のジェンダーの変容 女性性や貴族性の浮上</li> <li>・ 名所、宇治のジェンダーの変容 女性性や貴族性の浮上</li> <li>・ 「祇園もの」と舞妓表象の成立</li> <li>・ 鴨川・東山の周縁性 性・差別・死</li> <li>・ 近代京都の花街・遊廓</li> <li>・ 祇園・宮川町・七条新地・橋本</li> <li>・ 「大衆買春社会」と京都</li> <li>・ 金光教と歌舞伎・映画(マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら)</li> </ul>					
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）

高木博志編 『近代京都と文化－「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023年）

高木博志 『近代天皇制と伝統文化－その再構築と創造』（岩波書店、2024年）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

「京都の近代をめぐる政治文化史」に関わる巡見を希望者とする。

**（その他（オフィスアワー等））**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	奈良の近代をめぐる政治文化史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代奈良を政治史と文化史の複眼から考えたい。          近世には奈良町周辺の大仏観光の地であった奈良は、三都の京都とは違い地方都市にすぎなかった。それが現代の教科書の古代の叙述のほとんどが、奈良盆地の歴史として描かれる。その理由は、第1に奈良が明治維新を通じて、神武創業の地として浮上し、第2に1880年代のフェノロサ、岡倉天心以来、ギリシャに匹敵する文明の始まり、古代文化の揺籃の地と位置づけられたからである。第1の問題は、江戸時代には桓武天皇以来の平安京の天皇たちの菩提を弔う仏教的な先祖意識に対して、神話上の神武天皇から始まる奈良盆地の古事記・日本書紀叙述の「天皇の系譜」が浮上する問題がある。とりわけ初代神武天皇をめぐる神話は、1868年の王政復古の号令にはじまり、1940年の紀元2600年記念式典にいたるまで、大きな影響を及ぼす。第2の7世紀の法隆寺に始まる古代文化については、1889年の帝国憲法発布の時期に、「日本美術史」が成立し、今日の飛鳥・白鳳・天平文化といった時代区分が成立する。また文化財保護の歴史においても古都奈良は重要な役割を果たし、奈良帝室博物館は、古代文化を総覧する役割を果たす。20世紀には修学旅行や「古寺巡礼」のツーリズムの場となってゆく。          古代奈良の近現代における意味を考えることになる。</p>					
[到達目標]					
注のある形式の論文が作成できる。「奈良の近代をめぐる政治文化史」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治維新と奈良</li> <li>・ 文久の修陵事業と神武天皇陵の造営</li> <li>・ 明治10年(1877)明治天皇の奈良行幸</li> <li>・ 正倉院宝物 中国の文物世界から天平文化へ</li> <li>・ 正倉院御物の成立、大和三山の皇室財産化</li> <li>・ 陵墓の近代</li> <li>・ 岡倉天心・フェノロサと奈良の出会い</li> <li>・ 法隆寺をめぐる政治文化 文明のはじまり</li> <li>・ 宝物調査・奈良帝室博物館・古代美術史の成立</li> <li>・ ポストン美術館とフェノロサ・岡倉天心</li> <li>・ 吉野山の桜の保存と名勝化</li> <li>・ 国民道徳と聖徳太子像</li> <li>・ 修学旅行と奈良</li> </ul>					
現代史学(特殊講義)(2)へ続く					

## 現代史学(特殊講義)(2)

- ・ 紀元2600年記念事業と神武天皇聖蹟調査
- ・ 古都奈良と京都をめぐる

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究 天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）  
（KURENAIオープンアクセス）  
高木博志 『近代天皇制と伝統文化 その再構築と創造』（岩波書店、2024年）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

「奈良の近代をめぐる政治文化史」に関わる巡見を希望者で行う。

### （その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学34

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国近現代流行歌曲史				
[授業の概要・目的]					
<p>「歌は世につれ、世は歌につれ」というように、流行歌は時々の世相を反映するだけでなく、近代国民国家や社会主義体制では、文化芸術政策や大衆向け宣伝活動といったある種の政治的使命を負わされることもあった。本講義では、20世紀100年の中国を対象に、近代的国家建設、革命運動、抵抗運動、政治運動、戦争などの社会変動の中から生まれた流行歌を中心に60曲ほどをとりあげ、音楽の時代背景や歌手、作曲家の活動、その時々の政治状況などを解説する。</p>					
[到達目標]					
<p>日ごろ耳にすることの少ない20世紀中国の歌曲を実際に鑑賞し、それら歌曲が映し出す清末、民国、人民共和国の社会体制や世相の変遷を総合的、感覚的に理解し、それを通して中国近現代史に対する理解を深める。また、聴覚系の芸術作品(楽曲、演劇、語りモノ)を歴史学の資料として扱う場合の技術を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス(流行歌とは何か 日本との比較)</li> <li>2 国民国家・国民文化の誕生と流行歌の発生(清末)</li> <li>3 西洋音楽体系の導入(民国初期の学堂楽曲)</li> <li>4 革命運動と音楽(国民革命時期 軍歌と革命歌)</li> <li>5 民国国歌史(中国国民党と党歌、国歌)</li> <li>6 商業文化と音楽の商品化(上海モダン)</li> <li>7 ナショナリズムの高まりと救亡歌</li> <li>8 抗日戦争期の中国歌曲(義勇軍行進曲)</li> <li>9 人民共和国建国期の流行歌(宣伝と動員)</li> <li>10 音楽家の使命 毛沢東の芸術論・音楽論</li> <li>11 赤い音楽家たち(李劫夫、王双印)と毛主席詩歌・語録歌</li> <li>12 改革・開放期と海外音楽の氾濫(テレサ・テン、侯德健の位置)</li> <li>13 価値観の多様化と流行音楽の衰退(民主化運動とロック)</li> <li>14 ナショナリズムとメディアの変容、そして流行歌の行方、まとめ</li> <li>15回 フィードバック</li> </ol>					
[履修要件]					
<p>20世紀の中国史について概要を予習しておいて欲しい。中国語歌詞の解説のため中国語資料を用いるので、できれば中国語の基礎があることが望ましい。</p>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

学期末のレポート

**[教科書]**

使用しない  
その都度プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

石川禎浩 『中国近現代史3 革命とナショナリズム』 (岩波書店(岩波新書)) ISBN:  
9784004312512

久保亨 『中国近現代史4 社会主義への挑戦』 ISBN:9784004312529

**[授業外学修(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題				
[授業の概要・目的]					
<p>中国共産党にとって、革命の歴史を如何に描くか、および自党や各指導者の役割を如何に位置づけるかは、路線闘争と権力確立のための重要課題であったがゆえに、政治と歴史(研究)とは、半ば一体不可分であったと言える。中国共産党が結党以来3度(1945年、1981年、2021年)にわたって、歴史叙述と歴史解釈を党の決議事項として定めたことはその最も見やすい例である。</p> <p>本講義では、中国共産党史上のいくつかの事件、トピックを対象として、それらに関する歴史記述や評価が如何に変遷してきたのかを、時々の革命情勢、党内事情(例えば、延安整風運動や『毛沢東選集』の編纂)と結びつけながら考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>中国共産党の歴史をその自己認識と合わせて概述することにより、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史について、同党自身が折々に提示する公的な歴史像がどのように形作られ、その時々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 党史と歴史決議、『毛沢東選集』</li> <li>2 マルクス主義の伝播と党の結成(1919-1921年)</li> <li>3 国民革命(中国国民党との合作とその崩壊 1923-1927年)</li> <li>4 農村革命への転換</li> <li>5 中華ソヴィエト共和国の樹立(人民共和国のプロトタイプ)</li> <li>6 長征(1930年代中期)と毛沢東の台頭</li> <li>7 抗日統一戦線政策(1930年代後期)と西安事変</li> <li>8 抗日戦争と第二次国共合作</li> <li>9 延安整風運動と毛沢東の指導権(1940年代前期)</li> <li>10 抗日戦争の終結と国共内戦の開始(1940年中期)</li> <li>11 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立(1940年代後期)</li> <li>12 中ソ同盟への道と朝鮮戦争(1950-53年)</li> <li>13 中国共産党による社会管理(単位、戸籍、政治運動、思想改造)</li> <li>14 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として</li> <li>15.フィードバック</li> </ol>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

学期末のレポート

**【教科書】**

使用しない  
その都度プリントを配布する。

**【参考書等】**

(参考書)  
石川禎浩 『中国共産党、その百年』 (筑摩書房、2021) ISBN:978-4-480-01733-8

**【授業外学修(予習・復習)等】**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学36

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	1960年代の大学				
<b>[授業の概要・目的]</b>					
日本の大学は1960年代に大きく変化した。理工系を中心とした拡大、進学率の上昇やベビーブーム世代の入学による学生数の急増、学生の気質の変化、そして60年安保闘争に始まり大学紛争にまで至る学生運動など、変化の内容は多岐にわたる。そして、このときの変化が現在の大学のありようを一定程度規定していることも間違いない。本講義では、1960年代の日本の大学について実証的に分析し、この変化の内実に迫ることを目的とする。					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を読み込むことにより、1960年代の大学に起きた変化について理解する。</li> <li>・1960年代の大学についての理解を通じて、現在の大学についても理解を深める。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回	戦後高等教育改革				
第2回	1950年代の大学と学生(1)				
第3回	1950年代の大学と学生(2)				
第4回	60年安保闘争(1)				
第5回	60年安保闘争(2)				
第6回	大学管理問題				
第7回	高度経済成長期の大学と学生(1)				
第8回	高度経済成長期の大学と学生(2)				
第9回	大学紛争(1)				
第10回	大学紛争(2)				
第11回	大学紛争(3)				
第12回	大学紛争(4)				
第13回	大学紛争後の大学と学生				
第14回	その後の大学				
第15回	まとめ(フィードバック)				
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント30%、レポート70%とする。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	医療・衛生から見る近代日朝関係史				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、朝鮮の開国(1876年)から日本の植民地統治期(1910~1945年)を対象として、朝鮮において近代医学がどのように導入され、朝鮮社会にどのような影響をもたらしたか、また、朝鮮社会がどのように対応したのかを考える。</p> <p>前近代朝鮮において形成された伝統医学(韓医学)は、近代に入り欧米の宣教師と日本人によってもたらされた医学知識・医療施設の影響を受けつつ、大韓帝国(1897年~)の医療制度整備に組み込まれた。しかし、日本の韓国併合(1910年)以降、伝統医学は周辺化され、西洋医学を主体とした病院・医学教育機関の整備が進められた。</p> <p>近代朝鮮における伝統医学と西洋医学の葛藤、医学を通じた植民地支配体制の確立、植民地を対象とした医学研究、朝鮮人知識人・朝鮮社会の衛生論と朝鮮民衆、等々の問題を最新の研究に即して考察する。全体を、I朝鮮開港~韓国併合、II1910年代、III1920年代~30年代前半、IV戦時期に分け、各時期の医療衛生制度の特徴を概説するとともに、それぞれの時代を特徴的に表すテーマを取り上げ「トピック」として論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>コロナパンデミックによって、国境を越えた感染症の歴史が改めて注目されている。講義の履修によって、第一に、近代日朝・日韓関係史についての基本的な歴史の流れを把握することができる。第二に、植民地医学研究における基本的な概念を理解することができる。これらをベースとして、第三に、近代転換期における朝鮮の医療体制の形成、植民地期における日本の朝鮮支配政策と医療・医学の関係について知識を深めることができるだろう。</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	ガイダンス：近代の中の日朝関係と医療・衛生				
第2回	I 朝鮮における西洋医学の流入(1)				
第3回	朝鮮における西洋医学の流入(2)				
第4回	トピック：大韓帝国期・漢城の水道整備				
第5回	トピック：日本赤十字社と大韓帝国				
第6回	II 植民地期初期の医療体制				
第7回	トピック：売買春制度の形成				
第8回	トピック：軍医と植民地医療				
第9回	III 1920年代における医療政策・医学研究の変化(1)				
第10回	1920年代における医療政策・医学研究の変化(2)				
第11回	トピック：志賀潔と朝鮮				
第12回	トピック：京城帝国大学とロックフェラー財団				
第13回	IV 戦時期の医療衛生(1)				
第14回	戦時期の医療衛生(2)				
第15回	朝鮮解放と医療				
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

レポート（60％）、授業への参加（40％。随時小テストを行う）をもとに評価します。

**[教科書]**

毎回レジュメを配布します。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に紹介する文献を読み各自で理解を深めてほしい。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学大学院国際文化学研究所 衣笠 太郎 講師		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ドイツと中東欧の近現代史				
[授業の概要・目的]					
<p>近代以降の「ドイツ」の歴史・文化・社会を、現在のドイツ領域のみならず、広く旧ドイツ領やドイツ語圏の広がりをも踏まえつつ多角的に概観する。19世紀初頭のナポレオンによるヨーロッパ中央部の支配以来、いわゆるドイツ地域ではドイツ・ナショナリズムが興隆し、1848年革命を経て、1871年のドイツ帝国創設＝統一国家成立へと至ることになる。しかし、この19世紀以降のドイツ統一国家の形成・展開過程では、多様な言語・文化・宗派・帰属意識を持つ人々が入り乱れることになったがために、そこに居住する人々をめぐって包摂と排除が繰り返された。本講義では、そうした「ドイツ」の多様性や包摂・排除の側面に光を当てながら、ドイツ・中東欧の近現代史について見ていくこととする。</p>					
[到達目標]					
19世紀以降の歴史的な「ドイツ」や中東欧の社会・文化を学び、それを現代ドイツやヨーロッパのあり方と比較・対照しながら、両者の共通点・相違点について理解できるようになること。					
[授業計画と内容]					
<p>全体の構成としては、初回から第8回までの前半で、ドイツや中東欧に関する重要な歴史的テーマを学んだのち、後半の第9回以降は様々な境界地域やテーマに沿って大きく6つの視点からその近現代史をより深く考察する。</p>					
第1回	「ドイツ」とは何か 前近代のドイツ・中東欧				
第2回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(1)				
第3回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(2)				
第4回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(3)				
第5回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(4)				
第6回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(5)				
第7回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(6)				
第8回	ドイツ・中東欧史の重要テーマ(7)				
第9回	ドイツ・中東欧の境界地域(1)				
第10回	ドイツ・中東欧の境界地域(2)				
第11回	ドイツ・中東欧の境界地域(3)				
第12回	ドイツ・中東欧の境界地域(4)				
第13回	ハプスブルク史の重要テーマ				
第14回	ロシア地域におけるドイツ語話者				
第15回	これまでの講義内容のまとめ				
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点50%、学期末課題50%を原則とする総合評価を行う。毎授業後のコメントペーパーの提出に基づいて平常点を算出し、第15回付近でレポートを課して学期末課題とする。

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

メールアドレス：tkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学39

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代日本社会経済史				
[授業の概要・目的]					
<p>近世からアジア太平洋戦争期における日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。</p>					
[到達目標]					
<p>日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 経済史研究の視角</li> <li>2 . 近世前期の経済</li> <li>3 . 近世後期の経済</li> <li>4 . 幕末開港から明治維新へ</li> <li>5 . 勸業政策と明治農業</li> <li>6 . 産業革命</li> <li>7 . 帝国主義日本の形成</li> <li>8 . 第1次世界大戦と重化学工業化</li> <li>9 . 大衆消費社会の萌芽と社会政策</li> <li>10 . 井上財政から高橋財政へ</li> <li>11 . 農山漁村経済更生運動</li> <li>12 . 1930年代の重化学工業化</li> <li>13 . 軍需工業化とインフレ景気</li> <li>14 . 戦時統制経済の形成と崩壊</li> <li>15 . フィードバック</li> </ol>					
<p>受講者の関心等に応じて変更の場合あり。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

## 現代史学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。

### [教科書]

レジュメを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』（東京大学出版会、2021）

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007）

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学40

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 小堀 聡		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	エネルギーからみる日本の近現代				
【授業の概要・目的】					
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が自然環境や人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。					
【到達目標】					
資源・環境・エネルギーについて、多角的・歴史的な視点から考察する能力を養う。					
【授業計画と内容】					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
1 イントロダクション【1週】					
2 日本のエネルギー史概説【1週】					
3 薪炭、帆船、人力車:「在来」エネルギーの興亡【2週】					
4 石炭:筑豊と大阪【2週】					
5 水力:山梨と東京【1週】					
6 帝国から脱帝国へ【2週】					
7 エネルギー革命:中東と太平洋ベルト【2週】					
8 原子力:若狭と関西【2週】					
9 「失われた30年」とエネルギー【1週】					
10 フィードバック【1週】					
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。					
【履修要件】					
前期の特殊講義「近代日本社会経済史」を履修していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
期末レポートによって評価する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史：徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021）ISBN:9784623091942

中西聡編 『経済社会の歴史：生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）ISBN:9784815808938

**[授業外学修（予習・復習）等]**

講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、講義中に紹介する著書、論文、史料などに積極的に目を通すこと。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学41

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大学文書館 教授 西山 伸		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「学徒出陣」を考える				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、「学徒出陣」について考察する。「学徒出陣」とは、一般的にアジア・太平洋戦争時における学生生徒の陸海軍への入隊を指す用語であり、世間的にも広く知られているものだが、学問的分析はほとんど行われていないのが実態である。本講義では、近代日本における兵役と学徒との関係、軍隊における学徒兵の位置づけ、入隊後の学徒兵の実態、「学徒出陣」に関する戦後の語りなど、「学徒出陣」を総合的・実証的に検討することを目的とする。さらにこの検討を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深めることも目的とする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を読み込むことにより、「学徒出陣」の制度・背景・多様性およびそれぞれの時代状況について理解する。</li> <li>・「学徒出陣」についての理解を通じて、戦争と高等教育との関連について理解を深める。</li> </ul>					
【授業計画と内容】					
第1回	学徒出陣とはなにか				
第2回	兵役と学徒				
第3回	日中戦争期の学徒(1)				
第4回	日中戦争期の学徒(2)				
第5回	1943年夏の大量動員				
第6回	戦時体制下の高等教育				
第7回	学徒の一斉入隊(1)				
第8回	学徒の一斉入隊(2)				
第9回	戦争末期の学徒出陣				
第10回	学徒兵の残した記録(1)				
第11回	学徒兵の残した記録(2)				
第12回	学徒兵の残した記録(3)				
第13回	学徒出陣の戦後(1)				
第14回	学徒出陣の戦後(2)				
第15回	(まとめ)フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>毎回の授業時に提出するコメントとレポート試験により評価する。コメントおよびレポートについては、授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。なお、両者の割合はコメント</p>					
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

30%、レポート70%とする。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

多数の資料を配付するので、授業後にそれらの資料をよく読み返し自分の理解を確認すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学42

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都女子大学発達教育学部 教授 田崎 直美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦期のフランス：音楽文化史の視点より				
[授業の概要・目的]					
第二次世界大戦期に4年間(1940-44年)ナチス・ドイツに占領されたパリでは、実のところ戦前以上に、多彩で活発な音楽活動が展開していた。ここでは音楽/音楽活動にどのような「力」が作用しどのような意味を纏うことになったのか、そして後世にどのような影響を及ぼしたのか。本講義では、ヴィシー政権下のフランスの音楽界を主な対象として、史料研究より明らかになった事実・事例を紹介しつつ、社会のなかで音楽と政治が直接的/間接的に影響しあう諸相について検討し、現代にも通じる文化史の意義について考えることを目的とする。					
[到達目標]					
第二次世界大戦期、ドイツ占領下フランスの音楽界における歴史的・文化的事象のケーススタディを通して、大きく偏り歪められた権力構図のなかでの(音楽)文化のもちうる意味、及び現代社会への影響について、史料批判を交えつつ考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：西洋史学と音楽学の交差するところ					
第2回 音楽と政治の関係(1)：文化政策について					
第3回 音楽と政治の関係(2)：文化装置としての音楽					
第4回 ヴィシー期フランス(1940-44)の概要					
第5回 「国民革命」と音楽(1)：プロパガンダを考える					
第6回 「国民革命」と音楽(2)：「変わらなさ」の演出、フランス音楽の促進					
第7回 「国民革命」と音楽(3)：芸術家の生活保障					
第8回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(1)：第三共和政期からヴィシー期まで					
第9回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(2)：ヴィシー期					
第10回 戦争捕虜と音楽					
第11回 マスメディアとしての音楽：ラジオを中心に					
第12回 音楽と政治の関係(3)：マイクロヒストリーの視点より					
第13回 ヴィシー期の音楽家たちの態度					
第14回 「集合的記憶」と音楽：解放後の音楽家たち					
第15回 総括とフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学年末レポート(60点)、授業への参加状況(40点) ・授業の最後を書いてもらうコメントペーパーを通して、授業の理解度をはかるとともに授業への参加状況を判断する。					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

## 現代史学(特殊講義)(2)

・レポート評価については、到達目標の達成度に基づき評価する。

### [教科書]

使用しない  
講義資料を配付する。

### [参考書等]

(参考書)

田崎直美 『抵抗と適応のポリトナリテ ナチス占領下のフランス音楽』(アルテスパブリッシング、2022年) ISBN:4865592482  
ロバート・O・パクストン/渡辺和行・剣持久木 共訳 『ヴィシー時代のフランス 対独協力と国民革命 1940-1944』(柏書房、2004年) ISBN:476012571X  
渡辺和行 『ナチス占領下のフランス 沈黙・抵抗・協力』(講談社、1994年) ISBN:4062580349

### [授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献および授業中に紹介する文献を読み、学期末レポートに活かしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問やコメントを期待します。質問については、毎回のコメントペーパーで受け付けます(次回以降の授業のなかで、できる限り回答します)。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じて tazaki@kyoto-wu.ac.jp にメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学43

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	20世紀日本技術社会史－マイクロコンピュータと日本社会				
【授業の概要・目的】					
特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。					
【到達目標】					
技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から歴史を吟味し、考察することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 技術社会史の理論的基礎回 第一部 帝国 第4回 情報通信と帝国 第5回 戦争とコンピュータ 第二部 戦後日本のコンピュータ 第6回 鉄道のコンピュータネットワーク 第7回 コンピュータとカウンター・カルチャー 第8回 コンピューターマシンの作成 第三部 1980年代の「マイコン」 第9回 子供たちとコンピュータ 第10回 大学におけるコンピュータとジェンダー 第11回 「海賊」とコンピュータ 第12回 大人のコンピュータ 第13回 反コンピュータ運動 第14回 冷戦中のコンピュータ 期末試験 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

討論への積極的な参加（10点）、報告（1回、40点）、試験（50点）により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学44

科目ナンバリング	G-LET35 68433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー				
【授業の概要・目的】					
日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。					
【到達目標】					
グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から社会運動・思想史を吟味し、考察することができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション 第2回 「レフト」というのは何か 第3回～第5回 グローバル資本主義と社会主義 第6回～第9回 日本帝国とレフトの活動 第10回～第13回 日本レフトの内なる帝国 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
討論への積極的な参加(10点)、報告(1回、40点)、試験(50点)により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

## 現代文化学45

科目ナンバリング	U-LET32 28202 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門(上)				
【授業の概要・目的】					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。					
【到達目標】					
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1 科学とは何か(4回) 2 科学的推論(4回) 3 個別科学における科学的推論(2回) 4 科学的説明(2回) 5 個別科学における科学的説明(2回)  フィードバック(1回)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。					
【教科書】					
サミール・オカーシャ『科学哲学』(岩波書店)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

## 現代文化学46

科目ナンバリング	U-LET32 28204 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 伊勢田 哲治		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学哲学入門(下)				
【授業の概要・目的】					
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。					
【到達目標】					
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。					
【授業計画と内容】					
1 实在論と反实在論(3回) 2 個別科学における实在論問題(3回) 3 科学の変化と科学革命(3回) 4 個別科学における変化の問題(2回) 5 科学と価値(3回)  フィードバック(1回)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。					
【教科書】					
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。  (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	U-LET32 18206 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	科学史入門1(名著による科学史研究への招待)				
[授業の概要・目的]					
<p>科学史とはどのような学問だろうか。学問としての科学史は、自然科学をめぐる様々な出来事をたどって年表を作ることで、いわゆる「科学者」の様々なエピソードを集めることでなく、「科学」だけの歴史だけでもない。その一つの野心は、現在「科学」と呼ばれるものがどのように、いかなるものとして立ち現れたかを歴史的に調べることによって、「科学」が何かを明らかにすることである。その学問的内容は多様であり、さまざまな関心の人の中から自分にとって興味のある内容や、アプローチを見出すことができる。この授業では科学史という研究分野を形作ってきた数々の名著のうち、日本語でも読める14の魅力あふれる著作を選んでおおよそ年代順に紹介し、関連する研究について述べる。それを通して科学史の研究における様々なアプローチとその可能性について論じ、科学史という学問の面白さを伝える。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題提出のために読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通俗的な科学史についての考え方を打破し、科学史という学問の多様性とその中の主要なアプローチを知る。</li> <li>・ 科学史という学問がどのような点で履修者にとって興味深いものとなり得るのかを理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：科学史の通史なるものの虚構性について(シェイピン『科学革命とは何だったのか』)</li> <li>2. 科学思想史という方法とその限界：コイレ『コスモスの崩壊』</li> <li>3. 科学者集団の社会学：マートン『社会理論と社会構造』</li> <li>4. パラダイムと科学革命：クーン『科学革命の構造』</li> <li>5. 非西洋学問とニードム問題：ニードム『文明の滴定』</li> <li>6. 権力と規律と知識：フーコー『監獄の誕生』</li> <li>7. 実験装置と政治思想の科学史：シェイピン&amp;シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』</li> <li>8. ジェンダーと科学史：シーピングガー『科学史から消された女性たち』</li> <li>9. アクターネットワーク理論：ラトゥール『パストゥール』</li> <li>10. 物質文化の科学史：ギャリソン『アインシュタインの時計 ポワンカレの地図』</li> <li>11. 視覚実践と認識論的徳：ダストン&amp;ギャリソン『客観性』</li> <li>12. 知識のグローバルヒストリー：ラジ『近代科学のリロケーション』</li> <li>13. 非知の科学論：オレスケス&amp;コンウェイ『世界を騙しつづける科学者たち』</li> <li>14. まとめ：絡み合った世界の存在論：バラッド『宇宙の途上で出会う』</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>					
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----					

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

レポート2回(100%)。レポート課題は授業中に告知する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

古川安 『科学の社会史』(ちくま学芸文庫, 2018) ISBN:978-4480098832 (科学史に関する全般的な背景知識を得るのに推薦。)

スティーヴン・シェイピン 『「科学革命」とは何だったのか 新しい歴史観の試み』(品切れ)

アレクサンドル・コイレ 『コスモスの崩壊 閉ざされた世界から無限の宇宙へ』(白水社, 1991)(品切れ)

ロバート・K・マートン 『社会理論と社会構造』(1961, みすず書房)(品切れ)

トーマス・S・クーン 『科学革命の構造』(みすず書房, 2023) ISBN:978-4622096122

ジョゼフ・ニーダム 『文明の滴定 科学技術と中国の社会』(法政大学出版局, 1974, 2015)(品切れ)

ミシェル・フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』(新潮社, 1977, 2020)(品切れ)

スティーヴン・シェイピン, サイモン・シャッフアー 『リヴァイアサンと空気ポンプ ホップズ、ボイル、実験的生活』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN: 978-4815808396

ロンダ・シービンガー 『科学史から消された女性たち アカデミー下の知と創造性』(工作舎, 1992, 2022) ISBN:978-4875025443

ブリュノ・ラトゥール 『パストゥールあるいは微生物の戦争と平和、ならびに「非還元」』(以文社, 2023) ISBN:978-4753103782

ピーター・ギャリソン 『アインシュタインの時計 ポアンカレの地図 鑄造される時間』(名古屋大学出版会, 2015) ISBN:978-4815808198

ロレイン・ダストン, ピーター・ギャリソン 『客観性』(名古屋大学出版会, 2021) ISBN:978-4815810337

カピル・ラジ 『近代科学のリロケーション—南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築』(名古屋大学出版会, 2016) ISBN:978-4-8158-0841-9

ナオミ・オレスケス, エリック・M・コンウェイ 『世界を騙しつづける科学者たち』(楽工社, 2011)(品切れ)

カレン・バラッド 『宇宙の途上で出会う 量子物理学からみる物質と意味のもつれ』(人文書院, 2023) ISBN:978-4409031254

その他、授業中に紹介する。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

各回取り上げた書籍や、その他言及した書籍を各人の関心と必要に応じて読むこと。

系共通科目(科学史I)(講義)(3)へ続く

系共通科目(科学史I)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET32 18208 LJ34				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	方法としての日本科学史(重要著作を通じた日本科学史研究入門)				
[授業の概要・目的]					
<p>日本の科学史を通して、科学について何を明らかにできるだろうか。この授業では日本の科学技術に関する歴史研究の重要著作のうち、特に刺激的で興味深いと思われる14の著作を選んでおおよそ年代順に紹介することを通して、日本の科学技術の歴史研究における様々なアプローチを説明し、それが「科学」とは何かを明らかにするのにどのような意義があるのかについて論じる。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。ただし、課題では読むことが必要なこともある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の科学技術についての歴史研究の様々なアプローチを知る。</li> <li>日本の科学技術についての歴史研究に関して、これまでどのような研究がなされ、今後、どのような研究がありうるのかについて理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション：なぜ日本の科学技術史か？</li> <li>日本の科学思想史：辻哲夫『日本の科学思想』(1973)</li> <li>社会史(科学の体制化論)：広重徹『科学の社会史』(1973)</li> <li>戦後日本における科学の社会史：中山茂『科学と社会の現代史』(1981)</li> <li>科学の文化史：金子務『アインシュタイン・ショック』(1981)</li> <li>大学史：潮木守一『京都帝国大学の挑戦』(1984)</li> <li>初期近代の分岐点：板倉聖宣ほか『日本における科学研究の萌芽と挫折』(1990)</li> <li>国際関係・安全保障と科学技術：リチャード・サミュエルズ『富国強兵の遺産』(原著1996)</li> <li>官僚性と科学：吉岡斉『原子力の社会史』(1999, 2011)</li> <li>時間技術と近代：栗山茂久・橋本毅彦編『遅刻の誕生』(2001)</li> <li>科学とイデオロギー：泊次郎『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(2008)</li> <li>科学社会学と災害研究：松本三和夫『構造災』(2012)</li> <li>科学とジェンダー：古川安『津田梅子』(2022)</li> <li>まとめと番外編：伊藤憲二『励起：仁科芳雄と日本の現代物理学』(2023)ができるまで</li> <li>フィードバック (必要に応じて授業内容を変えることがある)</li> </ol>					
-----系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く-----					

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

レポート2回(100%)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

辻哲夫 『日本の科学思想』(中央公論社,1973) ISBN:978-4875592754 (2013年こぶし文庫から復刊)

広重徹 『科学の社会史』(中央公論社,1973)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

中山茂 『科学と社会の現代史』(岩波書店,1981)(品切れ。『中山茂著作集』第5巻に収録。)

金子務 『アインシュタイン・ショック』(河出書房新社,1981)(岩波現代文庫から復刊。どちらも品切れ。)

潮木守一 『京都帝国大学の挑戦 帝国大学史のひとこま』(名古屋大学出版,1984)(講談社学術文庫から復刊。どちらも品切れ。)

板倉聖宣、中村邦光、板倉玲子 『日本における科学研究の萌芽と挫折』(仮説社,1990)(品切れ)

リチャード・サミュエルズ 『富国強兵の遺産』(三田出版会,1997)(品切れ)

吉岡斉 『原子力の社会史』(朝日新聞出版,1999,2011) ISBN:978-4130230780

栗山茂久、橋本毅彦編 『遅刻の誕生 近代日本における時間意識の形成』(三元社,2001)(品切れ)

泊次郎 『プレートテクトニクスの拒絶と受容』(東京大学出版会,2008) ISBN:978-4130603195 (新装版(2017)は入手可。)

松本三和夫 『構造災 科学技術社会に潜む危機』(岩波書店,2012) ISBN:978-4004313861

古川安 『津田梅子:科学への道、大学の夢』(東京大学出版会,2022) ISBN:978-4130230780

伊藤憲二 『励起 仁科芳雄と日本の現代物理学』(みすず書房,2023) ISBN:978-4-622-09618-4, 978-4-622-09619-1

**[授業外学修(予習・復習)等]**

各回で取り上げる文献などを各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET37 18902 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義A) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(前期)				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、現代のメディアやコンテンツ、あるいはそれらを取り巻く諸現象を研究対象とした場合に陥りやすい諸問題を取り上げつつ、メディア文化を理論的なアプローチで研究する方法について考える。</p> <p>この講義で紹介する考え方は、現代のメディア文化(たとえばポピュラーカルチャーやインターネットカルチャー)の研究を主に想定したもののだが、文化研究全般に通用する考え方でもある。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おそらく誰もが初手ではまる思考上の落とし穴について十分注意できるようになる。</li> <li>・現代のカルチャーを研究するのは確立した分野の作法にしたがって研究するのよりもはるかにハードルが高い(自分でいろいろ勉強し、考え、判断すべきことが多い)ことを十分理解する。</li> <li>・既存の分野での知見を活かすことの重要さを理解する。</li> <li>・一般に理論とはだいたいどんなものかをなんとなく理解する。</li> <li>・個々の理論の内容についてなんとなく理解する。</li> <li>・理論の使い道と使い方についてなんとなく理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
<p>前半は文化研究における理論(一定の体系化されたものの捉え方)の例とその具体的な使い方をいくつか学びつつ、理論を導入することの利点や必要性を理解する。</p> <p>後半は文化を論じる際に陥りやすい思考上の落とし穴について学ぶ。</p>					
第1回	ガイダンス:現代文化の研究は難しい				
第2回	理論ってなんだ				
第3回	何にでも使える芸術理論:表象と表出				
第4回	「感じ」「～系」を語るための理論				
第5回	物語を論じるための理論				
第6回	ゲームを論じるための理論				
第7回	キャラクターを論じるための理論				
第8回	べき論の落とし穴:規範的と記述的				
第9回	定義論の落とし穴:言葉と概念				
第10回	ジャンル論の落とし穴:ジャンルの同一性と変化				
第11回	文化史記述の落とし穴:歴史は構築される				
第12回	社会反映論の落とし穴:そんなに簡単に社会は反映されない				
第13回	作品論の落とし穴:解釈の正当化の戦略				
第14回	文化とジェンダー:自分の政治的立場を省みる				
第15回	フィードバック				
系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)へ続く					

系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点：40%

期末レポート：60%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、各回の授業のポイントについて十分に理解できているかを問う記述式テストに近い形式を予定している。Googleフォームによる出題と回答になる予定。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

自分が日ごろ接しているカルチャーを反省的に眺めることを意識しながら過ごすことをおすすめします。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学50

科目ナンバリング	U-LET37 18904 LJ36				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(メディア文化学)(講義B) Media and Culture Studies (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	メディア文化学研究入門(後期)				
[授業の概要・目的]					
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとすれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学的な視点を身につけることによって、それらを通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
メディア文化学とは(2回) アニメに関わる研究領域とその方法(2回) 広告に関わる研究領域とその方法(2回) インターネット文化に関わる研究領域とその方法(2回) 写真に関わる研究領域とその方法(2回) スポーツに関わる研究領域とその方法(2回) ポピュラー音楽に関わる研究領域とその方法論(2回) フィードバック(1回)					
(ただし、受講生の興味関心に合わせて取り上げる領域を調整する可能性がある。)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(PandAを通じての予習・復習課題40%、小レポートの内容60%)					
-----系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)へ続く-----					

系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

PandAおよびPandAからリンクした授業用Webサイトなどで、スケジュールやWebリソースの紹介および課題の提示を行うので、こまめにチェックすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学51

科目ナンバリング	U-LET35 28407 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小野沢 透		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代史学概論				
[授業の概要・目的]					
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的位置づけを理解する。</li> <li>・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
以下のテーマを扱う予定。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？</li> <li>2. 近現代世界史という視点</li> <li>3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり</li> <li>4. 長い19世紀 資本の時代</li> <li>5. 長い19世紀 帝国の時代</li> <li>6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命</li> <li>7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦</li> <li>8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」</li> <li>8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界</li> <li>10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉</li> <li>11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉</li> <li>12. 21世紀 新自由主義コンセンサスの出現</li> <li>13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代</li> <li>14. アメリカ外交史から見た現代史</li> <li>15. まとめ、フィードバック</li> </ol>					
[履修要件]					
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。					
-----系共通科目(現代史学)(講義I) (2)へ続く-----					

系共通科目(現代史学)(講義I) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

学期末試験

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学52

科目ナンバリング	U-LET35 28408 LJ38				
授業科目名 <英訳>	系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 塩出 浩之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東アジアのなかの日本近現代史				
[授業の概要・目的]					
日本近現代史について、主として政治外交史を通史的に論じながら、近代性、世界システム、ナショナリズム、植民地主義、ヒトの移動、歴史認識など、日本近現代史を世界史、特に東アジア史の一部として理解するための視点や論点を提示する。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の近現代史、特に政治外交史に関する基本的な論点について、具体的な根拠に基づいて論じられるようになる。</li> <li>・世界史、特に東アジア史の一部としての日本近現代史を理解することで、通念的なナショナル・ヒストリーを相対化する視点を獲得する。</li> <li>・歴史学とは単なる知識の修得とは異なり、過去の世界に対する絶えざる「問い」であることを理解し、これまでの知見を踏まえて自ら発問できるようになる。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
以下に予定した各回の項目は、状況に応じて微調整することがある。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 世界市場と東アジア</li> <li>3 明治維新</li> <li>4 主権国家体制と東アジア</li> <li>5 立憲政治の形成</li> <li>6 資本主義経済と労働社会</li> <li>7 社会運動と民族運動</li> <li>8 帝国日本と人の移動</li> <li>9 中国侵略から対米開戦へ</li> <li>10 総力戦と社会</li> <li>11 敗戦と占領</li> <li>12 東アジアの分断と日米安保体制</li> <li>13 高度経済成長と沖縄復帰</li> <li>14 東アジアの戦後処理と歴史和解</li> <li>15 まとめとフィードバック</li> </ol>					
系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く					

系共通科目(現代史学)(講義II)(2)

**[履修要件]**

現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。

**[成績評価の方法・観点]**

期末試験によって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義で紹介する参考文献を、各自でできる限り読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学53

科目ナンバリング	U-LET35 18433 LJ38				
授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪商業大学経済学部 准教授 坂口 正彦		
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代日本の村社会				
[授業の概要・目的]					
<p>地域社会における共同性の構築が社会的な課題となっている。また、人びとはなぜ・どのように共同するのか(しないのか)という問いは、学問領域を超えた普遍的なものに属するだろう。この講義では近現代日本の農山村、なかでも村社会(村落社会)の共同性について検討する。具体的にはまず村社会における共同性の特質を地主小作関係・合意形成をキーワードとして捉える。そのうえで、明治期から戦争を経て高度経済成長期という変転著しい歴史過程において、国家の政策が村社会においてどのように受容・執行されたのかに焦点を当てることにより、村社会の特質を把握する。</p>					
[到達目標]					
<p>近現代日本における村社会の機能(意義・限界)とその歴史的展開について理解を得ることができる。</p> <p>国際比較や国内比較を行うことにより、各地域における村社会の共通性と差異について理解を得ることができる。</p> <p>地域に関する歴史研究の学問的・社会的意義を理解し、調査研究の方法を知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 村社会とは何か</li> <li>2 合意形成の方法</li> <li>3 明治後期・大正期の村社会と国家 「改良」の時代</li> <li>4 戦前期の村社会と国家 「更生」の時代</li> <li>5 アジア・太平洋戦争期の村社会と国家 「動員」の時代</li> <li>6 アジア・太平洋戦争期の「満洲」移民</li> <li>7 戦後改革期の村社会と国家 「改革」の時代</li> <li>8 高度経済成長期の村社会と国家 農村の「変化」</li> <li>9 高度経済成長期の村社会と国家 山村の「変化」</li> <li>10 家とは何か</li> <li>11 共同労働(むら仕事)からみた村社会</li> <li>12 倭約規範からみた村社会</li> <li>13 アジアのなかの日本の村社会</li> <li>14 村社会の研究法</li> <li>15 まとめ</li> </ol> <p>受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性がある。</p>					
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

現代史学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

到達目標の達成度をはかるため、期末レポートを実施する。

**【教科書】**

使用しない  
プリントを配付する。

**【参考書等】**

(参考書)

日本村落研究学会編(鳥越皓之責任編集)『むらの社会を研究する フィールドからの発想』  
(農山漁村文化協会、2007年) ISBN:9784540061516  
坂口正彦『近現代日本の村と政策 長野県下伊那地方 1910～60年代』(日本経済評論社、2014年) ISBN:9784818823419

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業時にさまざまな参考文献を紹介する。  
参考文献や授業プリントを用いて予習・復習をおこなうこと。  
その他、予習・復習の詳細については授業時に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

教員と学生との連絡方法については授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 現代文化学54

科目ナンバリング	U-LET45 10062 SJ36				
授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 伊藤 憲二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代文化学への招待Ⅰ				
[授業の概要・目的]					
<p>現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、基礎現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は2つの性格をもっています。</p> <p>ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1・2回生のための導入的な専門科目という性格です。多様な基礎現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、基礎現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p> <p>ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践の場であるということです。現代文化学専攻で学び、将来大学教員を志す研究者が、実際に学生に教えることを通して教育力を伸ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。</p>					
[到達目標]					
<p>この科目は、基礎現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む基礎現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を知ることによって、受講生が基礎現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となることが期待されます。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>初回の授業で簡単なガイダンスを行ったあと、下記のスケジュール・内容で5名の講師が各3回の授業を行います。</p> <p>第1～3回 コンスタンティノープル-イスタンブルに生きるギリシア人の文学と民族意識 (担当：福田耕佑) 導入: ギリシア史の側面から見た近世・現代のイスタンブルのギリシア人について 本土ギリシア・ナショナリズムにおける自己意識と「脱亜入欧」とイスタンブルのギリシア人の位置 二十世紀のイスタンブルのギリシア人の文学作品に描かれるギリシアとトルコ</p> <p>第4～6回 日本のパーソナルコンピュータ史 (担当：鈴木真奈) 1970年以前の日本のコンピュータの歴史 マイコンブーム：1970年代後半からのマイコン・パソコンの歴史 日本語とコンピュータ：日本語ワードプロセッサ専用機を中心に</p>					
-----基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く-----					

## 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

### 第7～9回 日本文化の形成史：特有文化の作られ方

(担当：マルチン・タタルチュック)

明治時代の京都と国風文化  
20世紀における物語と観光  
現代京都と新たな文化の試み

### 第10～12回 文化財移動と国際文化交流

(担当：平岡久代)

欲望で読み解くフェノロサと明治政府  
移動する文化財  
1953年アメリカ巡回日本古美術展覧会

### 第13～15回 日本近代都市における人と水の関係史～京都市を事例に～

(担当：白木正俊)

近代社会における人と水の関係史  
京都市における琵琶湖疏水事業の展開  
京都市における鴨川改修事業の展開

一部スケジュールが変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

#### 【履修要件】

授業は主として1・2回生を受講者に想定して行いますが、3・4回生の受講も可。

#### 【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートを提出していただきます。

#### 【配点】

平常点50%

試験(レポート)50%

#### 【平常点の評価基準】

毎回授業終了時に書いていただくリフレクションシートの提出実績によって評価します。

#### 【試験(レポート)の評価基準】

各講師の最後の授業で出されるレポート課題の提出実績および内容のクオリティによって評価します。分量は各400～800字程度になる予定です。

#### 【教科書】

使用しない

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業時に各担当者から課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。